

成果指標				
成果指標	有収率(%) = 年間有収水量 / 年間総配水量 × 100			
指標設定の考え方	有収率は、配水量に対し、料金として回収される水量(有収水量)がどれ位あるかを示すものである。有収率が低いということは、漏水が多いという指標となる。よって、漏水改善を講じることにより有収率の向上につながる。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標29年度
目標	93	93	94	95
実績	92.4	91.5	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	漏水調査を実施することで漏水箇所を発見し、早期に修繕することができている。早期に修繕することにより不明水量の減少に効果を挙げていると考えられる。特に漏水が発生すると不明水が多くなる排水施設からの漏水調査の成果を集約し漏水が多発する路線を把握し、老朽管更新事業と並行し事業を行うことにより、いっそう水資源の損失を抑え有収率の向上につながると思う。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	漏水調査業務は、漏水箇所の早期発見や漏水箇所の特定ができるため、漏水修理等の早期対応が可能となる。このことは、有収率の向上や漏水による2次災害の防止、水資源の有効利用並びに水道事業における経費縮減につながるために、今後も継続的な漏水調査を実施するとともに、併せて老朽管更新事業の推進を図っていきたい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題